



東京金山会通信 No.19

東京金山会 広報担当 (藤山善夫)
☎080-5525-0435
✉fujiyama.d.siren@ae.auone-net.jp

つい最近まで暑かったのが信じられないくらい朝晩寒くなりましたね。夏物の片付け、衣替えはしましたか？10月に入ると町のあちらこちらで稲刈りが始まったことと思いますが、今年の新米の出来栄えはどうでしょうか。我が故郷金山町は水清き町、もちろん今年も美味しくできたことと思います！我が家は10月中旬に新米が届き美味しく頂きました。毎年感謝、感謝です。少年期に母ちゃんが握ってくれた塩おにぎり、囲炉裏で焼いた味噌付け焼きおにぎりを思い出します。美味しかったな～。

コロナウイルスの影響で1月から役員会を開催する事が出来ませんでしたが、10/3(土)に15名が出席し東京金山会役員会を開催しました。来年の東京金山会総会についての色々な意見が多数出されました。



① 柿崎会長代行挨拶。東京金山会資料と会に関する資料のデジタル化を進めたいと提案された②役員会の様子



柴田さんご家族

【都会でがんばる金山町出身者】
都会での生活を夢見て故郷をあとに、都会での荒波にもまれながら故郷を思い、がんばっている皆さんを紹介していきます。7人目は柴田元さんです。

柳原の柴田です。大学までは金山の町技であるスキーに全精力を注いでいました。現在は銀行に勤務しており、兵庫、大阪、福岡勤務を経て6年前に東京にきました。最近はダイエット目的で始めたトレイルランニングにどっぷりハマってしまい、時間を見つけては山の中を走り回る日々です。コロナが収まったら一緒に走りませんか？

ぶんげい

金山杉俳句会報 第四四回

星川 キエ子
ジャグジーを独り占めして夏深し
ふと側に鏡の疵や夜の秋

岸 あき子
芋の葉に露ころころと遊びをり
法師蟬神室の山に啼き尽す

高橋 洋子
窓越に滂沱の雨や秋出水
朝顔に暫し目を止む朝餉前

鶴沼 よし子
吾京紅儂きことは口にせず
濃竜胆咲かず旧道女坂

阿部 一代
盆用意日射し明るき朝の寺
香草を口に含みて若き声

阿部 サタエ
老眼鏡替へて読書の夜なりけり
秋ざくら影が伸び来て石仏

菅越 庄司 けみ子
鮮やかな活気漲る竹の春
萎れたる葉末に遊ぶ白露かな

荒屋 関 喜美子
稲の香を運ぶ風なりあさげ刻
咲き満ちて風を呼ぶなり路地の菊

七日町 青柳 キエ子
共に行く秋を探しに旅靴
棚田より湧き立つ霧の豊かさよ

羽場 坂本 徳太郎
原爆忌あゝ広島や長崎や
積乱雲百面相に時刻忘れ

上台 阿部 一步
一年の労苦に実る出荷米
名湯や白の絨毯蕎麦の花

七日町 村松 恣風
横沢を洗ふが如し今日の月
出来見事郷を賑はす落花生

No.177 「森の子ども図書コーナー」 交流サロンぽすと内



『おちばいちば』
(西原みのり/作
ブロンズ新社)

さっちゃんがお馬さんを追いかけていると、突然強い風が吹いてきました。目を開けると賑やかな広場がみえました。さっちゃんは歌いました。「くーださいなくださいな。きのみのおだんごくださいな」「はいー10グリよ」と、とかげのおくさん。ここではどんぐりのぼうしがお金なのです。次に向かったのは、おちばのうおいちば。きつねがおちばのさかなを頭にのせるとおおきなおちばにだいへんしん。強い風がおこるとさっちゃんたちは吹き飛ばされ、ママがほしていたシーツに飛びこみました。「ただいまあ！」
今の季節にぴったりの自然に触れることができる絵本です。

「図書室だより」 中央公民館内 9:00 ▶ 16:00

『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』
(青柳碧人/双葉社)
今作の主人公は赤ずきん！クッキーとワインを持って旅に出た赤ずきんがその途中で事件に遭遇。
『ガラスの靴の共犯者』魔法に魔法をかけてもらった赤ずきん。シンデレラとカポチャの馬車でお城の舞踏会に向かいますが、途中で男を轢き殺してしまっただけです…。



『銀花の蔵』
(遠田潤子/新潮社)
絵描きの父と料理上手の母と暮らす銀花は、一家で父親の実家へ移り住むことに。そこは座敷重が出ると言い伝えられる古い醤油蔵のある家だった。家族を襲う数々の苦難と一族の秘められた過去に対峙しながら、昭和から平成へ、少女は自分の道を歩き出す…。



はじめての BirthDay !

11月に晴れて1歳の誕生日を迎えられる子どもたちを紹介します！

渡部 瑛斗くん (手代森)



2人仲良く元気いっぱい育ててね！お姉ちゃんよろしくね★

笹原 ふみちゃん (羽場)



ふみと言います。きかなしです。強い子かも知れません(笑)パパママそんま越されるわー(笑)